

10. 橋梁工事

10-1 コンクリート桁（ポストテンション桁）

(1) 鉄筋組立状況



留意事項

- 鉄筋径・本数・配筋ピッチを確認するためには、その撮影目的に応じた接近写真も撮影する。

撮影方法

- 鉄筋組立完了後の形状が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 配筋図、ピッチ・幅・高さ・長さを記入する。

(2) 鋼線の緊張状態



留意事項

- △作業状況、手順がわかるように別のアングルでも撮影し、メーターの実測値も撮影する。

撮影方法

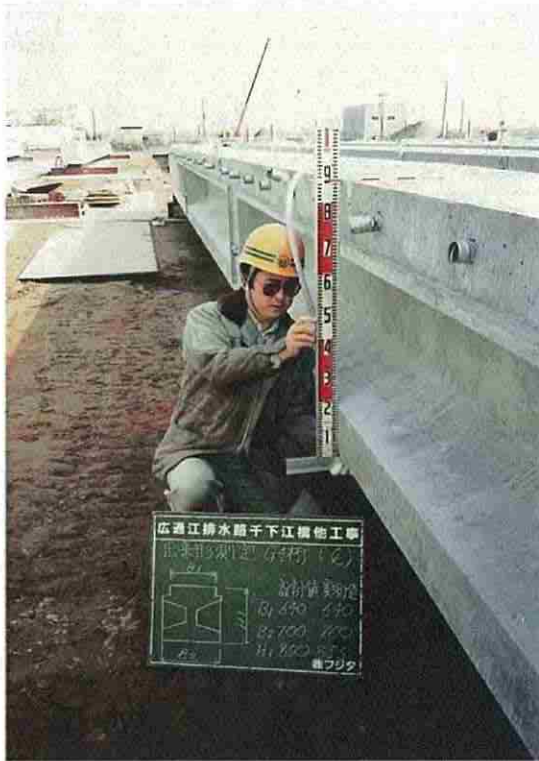
- 作業状況及び使用機械・器具がわかるように撮影する。
- 作業対象の桁番号を表示する。
- 作業実施結果も確認できるように黒板に記入し、黒板を入れて撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容
- 桁番号
- 桁仕様
- 鋼線の規格
- 設計緊張力・実績値を記入する。

10-1 コンクリート桁（ポストテンション桁）

(3) 幅・高さの測定状況

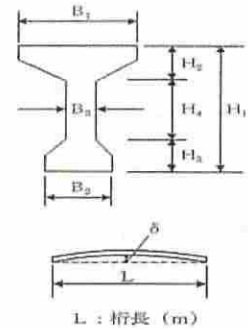


撮影方法

- 桁製作完了後断面図の形状が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を赤で記入する。



留意事項

- ピンポールを目盛りにあてているので実測寸法がわかりやすい。
- 黒板の記入内容がわかりやすいが、測定箇所の表示がない。

(4) 主桁の架設状況



撮影方法

- 架設全景がわかるように撮影位置を工夫する。
- 架設工法の特徴がわかるように使用機械の状況も撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置 (桁名)
- 作業内容
- 使用機械
- 桁仕様 主桁〇号
B = 〇〇m
L = 〇〇m

留意事項

- クレーンによる架設の全景がよくわかる。
- さらに接近して架設工法の特徴がわかるように撮影する。
- 黒板を入れて撮影する。

10-2 鉄筋コンクリート床版工

(1) 型枠検査の状況



留意事項

- 全体の検査状況がわからないので、略図を黒板に表示し、型枠に標尺をおく。
- 検査対象を明確にするために、検査をカメラの手前で行うなど工夫する。

撮影方法

- 型枠の設置状況と検査状況の全体がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 検査内容
- 床版仕様
- 検査官名、若しくは職員名を記入する。

(2) 配筋確認状況



留意事項

- 配筋の全体状況がわかりやすい角度である。
- 区分できるよう鉄筋に色分けしたマーキングをしてわかりやすくする。
- 目盛が確認できないので、幅の広いロッドやピンポールを用いて確認できるようにする。
- 足場板等を使用し、鉄筋に直接乗らないようにする。

撮影方法

- 鉄筋組立完了時に、鉄筋の有効高さ、鉄筋のかぶり、鉄筋間隔などの配筋状況が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 鉄筋間隔・径を記入する。

10-2 鉄筋コンクリート床版工

(3) コンクリート打設状況



留意事項

- 撮影位置が施工位置から離れているので、作業状況がわかりにくい。
- 黒板を入れて撮影する。
- 撮影に支障となる手前の余分なものを整理整頓する。

撮影方法

- 施工状況とともに、使用機械・施工場所がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 検査内容
- 床版の厚さ・幅等
- コンクリート仕様
- 使用ポンプ、バイブレータ等の規格を記入する。

(4) 厚さの測定状況



留意事項

- 検尺棒に赤いテープを付けわかりやすくしている。
- 黒板に測定内容がわかりやすく記入されている。
- 黒板を正面に向ける。
- △目盛がわかるようにアップでも撮影する。

撮影方法

- 検尺棒による床版の厚さの測定状況がわかるように工夫して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

